

令和5年1月

江差町教育委員会

学校教育課

『子供たちを成長させる力②』

令和5年が穏やかに明けました。皆様にとって『新しい景色を見られる』前進の1年になることを祈念いたします。

昨年12月、雪が積もった我が家の裏の小さな斜面を学校帰りの4～5人の中学生が上っていました。歓声を響かせながら道路をショートカットする坂登りは、とても楽しそうに見えました。

自分の小学生の頃、遊びはあちこちにありました。稲刈り後の田んぼで野球ごっこをし、ボールを追って肥溜めに足のはまった友人。その手を引っ張り救出し、みんなで泣き笑った光景を思い出しました。あの頃は遊び場所として整備されていない所でもそれなりに立派な遊び場でした。冬には林道や裏山でソリやミニスキーをしました。靴の中がびしょびしょになり、家に帰ってからストーブの前で温めたしもやけの足の痒かったこと。今ではそんな思いをすることもないのは、靴の性能が良くなっているからなのでしょう。

寒い冬に温かいお湯につかるのは、とても幸せな時間です。温泉ならばなお更のこと。

~~~~~

仕事を終えて家に帰ると、小学生の息子がお風呂を沸かしてくれていました。「あら、太郎ちゃん、お風呂を沸かしてくれたの。ありがとうね。」お母さんがお風呂に入ると湯舟いっぱいにお湯が張られていました。『もったいない・・・』と思ったものの、お風呂から上がったお母さんは、「温泉に行ったみたいで気持ち良かったわ～。ありがとう。でも贅沢すぎるから今度からは入っても溢れないくらいでいいわよ。」と言いました。その日から、太郎くんはお風呂沸かしを自分の役割としました。もちろん適度な湯量です。もしもあの時、「こんなにお湯を沸かしたらもったいないでしょ!」と、怒っていたら、太郎くんは二度とお風呂を沸かすことはなかったでしょう。

40年以上前にテレビで観た教育講話の内容の一部です。函館の大学で教鞭をとっていた話術の面白い方だったので印象に残ったのですが、次の行動へと繋がる意欲付けの参考として、私の教員生活に大いに役立ちました。

この先生の講話には【愛の反射鏡】というお話もあり、『愛』という字を分解して、『愛は心をノの字で受ける』（受という字の真ん中に心を書き、ノを加えると愛という字になる）と話しています。例えば、子どもが「お母さん、先生にほめられたんだよ。」と言ったら、「あらあ、ほめられたノ。」と、ノの字をつけて返してあげるだけで、心（情）を受け入れたことになります。先生は、子どもさんにもご主人にもノをつけてそのまんま繰り返してあげることで情に反応することになり、疲れた様子や嫌なことがあったであろう顔つきには、同じ表情をして返してあげるのも同様に情を受け入れられたと感じさせ、元気と次の行動への力水になるとして、この対応が【愛の反射鏡】だと説明していました。

そして、「それなのにたいていの場合は、なんでほめられたかとしつこく聞き返したり、

そんなの当たり前のことをしただけだなどとたしなめ、子どもをこんつけさせて、口げんかになってしまうんですね。心当たりあるでしょ。」と、会場の皆さんを笑わせていました。

『傾聴・受容・共感』が、信頼関係の土台をつくるということをユーモアを混ぜながら伝えていたのだと思います。

さて、教育委員会では年に2回「生活リズムチェックシート」による町内小中学生の生活や学習状況の調査を行っています。令和4年度の夏の状況をお知らせします。

小学生では、朝食の摂取や早寝早起きの状況はおおむね良好です。テレビやビデオ視聴時間とネットやゲームの合計時間が全体的に増加しています。ネットの利用に関しては、家庭での約束ごとをつくり、節度ある使用を心がけさせることが望まれます。家庭学習は、おおむねなされている状況です。

中学生でも朝食の摂取や早寝早起きの状況はおおむね良好ですが、休日になると就寝・起床時間が遅くなる傾向が見られます。睡眠時間が成長や疲労回復に関係することへの理解が必要です。ネットやゲームの時間が全体的に増加しています。ネット利用に関する家庭での約束をつくることが望まれます。家庭学習時間は大幅に減少していて、改善に向けて早急な対応が必要です。

小中学生ともに、向上した点と改善を要する点があります。健全な生活・学習状況を身につけさせてあげたいものです。必要性を感じた時に子どもたちの力は大きな伸びを見せます。『子どもの心に火をつける』大人の働きかけは、子どもたちを成長させる大きな力になります。大変難しいことですが、家庭や学校での指導、地域の教育力をバランスよく生かしたいものです。冬実施の結果については、後日お知らせいたします。

以前、横断歩道を渡り終えた後に礼をした高校生の話を書きましたが、今回は横断歩道を渡った小学生たちが一斉に振り返り頭を下げたという話を聞きました。また、「小学生の頃からやっているのだから当たり前のことと思っています。」という中学生の話も耳にし、「横断歩道に人がいても止まらない車が多いですね。」という話には、耳の痛い思いをしました。

江差の子どもたちは、良いところをたくさん身につけて成長しています。自己肯定感と自己有用感を高め、自己改善ができるよう、子どもたちの更なる成長を助けられるべく、「エエ町、江差」の格好良い大人でありたいと思います。